

『令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果・分析』

江戸川区立一之江第二小学校

調査日 令和5年4月18日（火）

対象学年 第6学年実施人数：115名

【結果】

《結果》平均正答率	国語	算数
本校	74%	71%
東京都	69%	67%
全国	67.2%	62.5%

【教科ごとの分析】

国語

	全体	話す・聞く	書く	読む
本校	74%	79.4%	32.3%	76.2%
東京都	69%	73.5%	28.9%	73.2%
全国	67.2%	72.6%	26.7%	71.2%

○全ての項目において、全国、東京都いずれも平均を上回った。

○「書く」については、全国、東京都いずれの平均を上回っているが、5割を切っており、他の項目と比べて点数が低い。

- ・物語文や説明文では、『文章全体の大まかな内容を捉えた読み』から、『視点を明確にしながら細部を正確に捉える読み』を重点的に指導していく。

【物語文での視点】

設定や場面の転換点、人物の相関など

【説明文での視点】

問いと答え、要旨（筆者の主張）など

- ・朝読書の他、読書科の時間を有効に使い、じっくりと活字に親しめる時間を確保する。

- ・特に『根拠を明確にして自分の考えをまとめて工夫して伝える力（書く力も含む）』という点について重点的に指導していく。

算数

	全体	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
本校	71%	75.2%	57%	78.7%	73.6%
東京都	67%	71%	54.8%	75.8%	67.3%
全国	62.5%	67.3%	48.2%	70.9%	65.5%

○全ての項目において、全国、東京都いずれも平均を上回った。

○図形は6割を切っており、他の項目と比べて点数が低い。

- ・毎週水曜日のパワーアップモーニングと毎学期1週間取り組んでいる家庭学習週間において、東京ベーシックドリルの診断テストの結果を基に、ドリルパークを活用して既習事項の定着に取り組んだ結果、各項目において高い正答率を得ることができた。
- ・少人数指導や朝学習、放課後補習教室など、基礎基本を定着させる指導を継続するとともに、活用する能力を身に付けさせるために学習活動や教材の工夫を行っていく。
- ・今後、算数において、図形の領域を指導する際は、図形の名称や性質が理解できるような取り組みをしていく。基本図形の面積の求め方や公式の意味の確実な理解を図る。図形を構成する要素などに着目して筋道を立てたりして考えさせていく。
- ・変化と関係の領域では、2本の数直線を活用しながら基準量、比較量と割合の関係を整理し、正しく立式できるように継続して指導していく。
- ・中学の数学にスムーズにはいれるように、小学校で学んだ基本的な四則計算の反復練習を徹底する。その際、整数だけでなく小数や分数の四則計算などについても、確実な定着を図る。